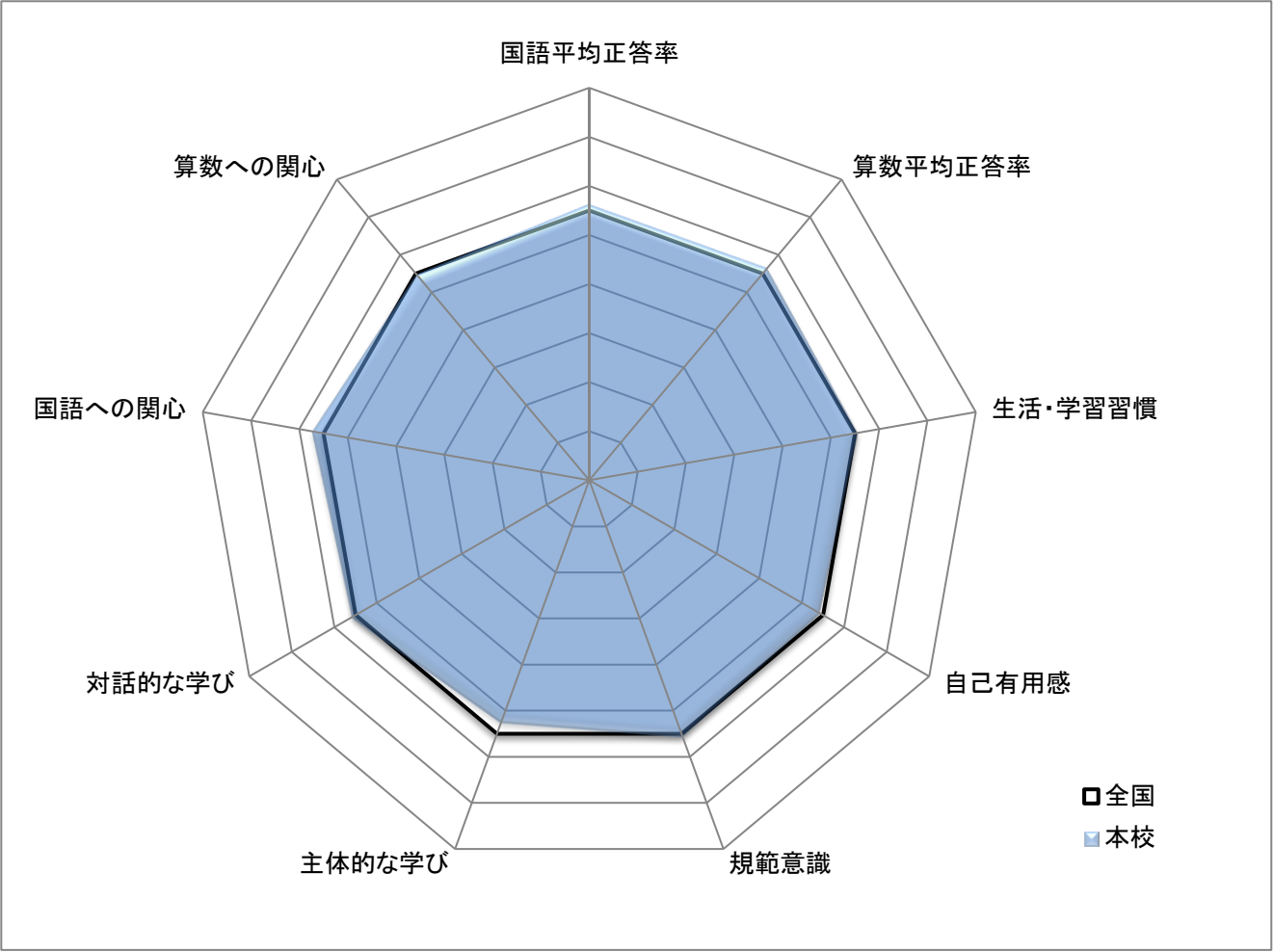


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語の学力は、全ての項目において全国平均を上回った。「書くこと」の領域に強みがあり、記述式で自分の考えを文章で表現する力が身に付いてきていると考える。

算数の学力は、全ての項目において全国平均を上回った。「数と計算」「データの活用」の領域に強みがあり、基礎的な計算力と資料から問題を読み取って解く力が身に付いてきている。

国語は知識・技能、算数は思考力を課題としている傾向がある。基礎的な学力のさらなる定着と学習したことを生かして、すすんで応用した学習に取り組む児童の育成を目指していく。

《授業改善のポイント》

国語の授業では、目的に応じ、話の内容が明確になるように構成を考えたり、表現したりする活動を積極的に取り入れて行っていく。また、漢字や文法を始めとした基本的な知識・技能を確実に定着させられるように、漢字練習や読書などを継続して指導していく。

算数の授業では、既習内容と関連させて自分の考えをもち、正しく表現する力を身に付けるために、学習したことを応用して考える問題に取り組ませ、解き方に慣れさせていく。基礎的な計算の力が着実に伸びるように、ドリルやタブレットなどを効果的に活用していく。

校内研究においては、既習事項を活用した学習をどの学年でも意識し、さらに学習を深める授業を行っている。どの教科でも問題から問われていることを読み取り、既習事項を活用して自分の考えをもてるように指導していく。

《チャートの特徴》

全体的に見ると、児童の意識調査は全国平均とほぼ同程度の結果となった。しかし「算数への関心」「主体的な学び」の2つの項目が全国平均に比べて低いという結果が出ている。

児童の意識調査に関しては、「国語への関心」「対話的な学び」の項目が全国平均を上回っている。2つの数値の高さから、3年間校内研究で国語を研究した成果が表れている。平均正答数も上回っていることから着実に理解を深めることができた。

また生活・学習習慣が定着し、友達と考えを交流しながら学習に取り組んでいることが考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

SNSルール強化週間の取組を通して、SNSやICT機器の適切な使い方について家庭に呼びかける。学習用iPadは、有効に活用すれば学習への関心を高めたり、学力を定着させたりする手立ての一つになる。授業、宿題や家庭学習でもiPadを使った学習を推奨するとともに、ICT機器の適切な活用を促すべく、家庭・地域と連携をさらに深めていく。